

# 信州読書会 ツイキャス読書会

## 課題図書 トルストイ『人はなんで生きるか』

信州読書会では、毎週、ツイキャスをつかった視聴者参加型の読書会を開催しています。

信州読書会のメルマガ登録者は、課題図書の読書感想文を 800 字で書いていただければ、放送中に紹介します。  
(募集要項はメルマガでお伝えします)

また作品に関する質問・感想などは、どなた様も、放送中ツイートいただければ、とりあげます

信州読書会 ツイキャス <http://twitcasting.tv/skypebookclub>

『信州読書会』メルマガ登録はこちらから [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=714](http://bookclub.tokyo/?page_id=714)

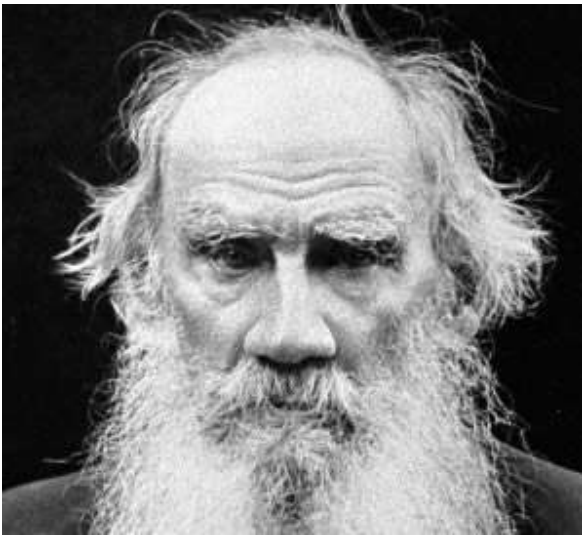
今後のツイキャス読書会の予定です。 [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=2343](http://bookclub.tokyo/?page_id=2343)

課題図書はこちらでお求めください <http://astore.amazon.co.jp/sphinx01-22>

『ツイキャス読書会』音声のバックナンバーです。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLVj9jYKvinCsgP7jtFgzqxea6cgqd7mrf>

(感想文は動画の下の説明欄に PDF へのリンクを張ってあります。)



第 42 回のツイキャス読書会の課題図書は、トルストイの『人はなんで生きるか』です。

読書感想文を提出して下さった皆さんありがとうございます。

## 「人はなんで生きるか」の感想文

トルストイの「人はなんで生きるのか」を初めて読んだ。題名だけ読むと「人は何のために生きるのか」と読めるが、一読してみて「何によって生かされているのか」という意味だと思った。

同じ短編集に収録されている「二老人」とテーマは共通しており、隣人愛の大事さについて訴えかけている。

セミヨーンは「二老人」のエリセイと同じタイプでお金の管理にはいい加減だが、逆に言うと貸しを他人から厳しく取り立てたりしない寛容さがある。マトリヨーナは当初はミハイルを猜疑的な目で見ることが、その後態度を改め、夫と同様献身的にもてなす。

最後にミハイルは実は天使でセミヨーンの家でいた6年間の間に3つのことを学んだことが明らかになる。「人間の中にあるものは何か、人間に与えられていないものは何か、人間はなんで生きるか」。すなわち、人間には愛があり、自分に本当に必要なものを知ることができず、人間は他人の愛によって生かされている。

問いの1番目と3番目は上記の隣人愛に直結するが、2番目が他と少し方向性が違うように思う。本当に必要なものは自分で求めるのではなく、他者によって与えられるということだろうか考えた。

自分の生活に振り返って考えてみると、現代における合理的な考えというのは短期的な目先の視点での利益を追求する生き方、考え方で、他の人も同じような考え方をすると結局はお互いの幸福を打ち消して削り合ってしまうことになるような気がする。

私は利他的な、無償の愛を与えるような生き方をこれまでしてこなかったもので、これから変えるのは難しいけれど、少しずつでも意識していければいいと思う。

(おわり)

9/1(金)の読書会で紹介するはずだったのですが、こちらのミスで、紹介し忘れてました。鼠さんごめんなさい。

9/5(火)の読書会で紹介させていただきます。

## 「人はなんで生きるか」感想文

この話は神の存在を知らせるための架空の話だとしても、私は、「ここに出て来る神って、少し冷たいんじゃない〜い。」と思ってしまった。

だって、双子を産んでたすけてくれという母親の魂を天使に抜けと言ひ、それに歯向かった天使に罰を与えるし、ちょっと関わりを恐れて通り過ぎた真面目な靴屋の主人にさえ死相が出たとか、当たり前とも思える奥さんの態度に死臭がするとか書いてあるから。その上、双子に乳をあげた女性の実の子まで2歳で死なせるし。

まあ、慇懃無礼な旦那と呼ばれる男はひどい目に合わせてもいいけれど、帰る間に死なせるのはやり過ぎ。

ああそれにしても、「人々の心に愛があり、助け合うから人は生きる」が、全人類に伝われば、ミハエル いやミサイルは飛んでないのでしょうか？ でも、神が違えば愛も違うからやっぱり駄目ですね。

(おわり)

# 「人はパンの為に生きるにあらず」

タイトルに惹かれてこの作品を読みました。

仕事の報酬をすぐに渡さない農民や、妻にブツブツ文句を1人で言いながら、「別に自分は外套なんてなくて、酒さえありゃ暖かいや」と寒さの中を歩く姿にどことなく自らを重ねてしまいました。

妻のマトリョーナが「わしらは人にくれてばかりで、どうして人はわしらに何もくれないんだろうね？」と言いました。睡眠時間を削り家事を頑張っても妻に感謝の言葉をもらえないとか、小さな我が子に愛を注いでいるつもりなのに分かってもらえずイライラする時があるよとか、現代人の僕もあなたの気持ちはわかりますよ、とマトリョーナに声をかけてあげたくくなりました。

ただ「嫌われる勇氣」の著者の岸見先生は「承認欲求が強い人ほど介護や育児で疲れる、そんなものは捨ててしまいなさい」とテレビで言っています。禅の精神にも通じるものがあり、なるほどと思いましたが、なんだかそれだけでは少し足りないような気がしていました。

そこに作中でマトリョーナがひとつ提示してくれました。親はなくとも子は育つと言うが、神がなくては人は生きていけぬ、と。

僕は無心論者でもなく、特定の神仏を信仰しているわけでもありませんが、信じるということはとても大変でも何か大事なものを胸に抱え生きていたいと最近思うようになりました。そして願わくば死人のような顔をした人の中にも愛を見たミハエルのように、人の心を見つめられる人間でありたいと思うようになりました。

10代の終わりに自分で作った歌の歌詞を思い出しました。

きっとほら、大人になると言うことは見えない誰かに

「信じる」ことを知らずに試されているのかな？

強い意志、創造力だけで見えるものがまるで違う

まさか若い日の自分が語りかけてくると思わず赤面しています。

(おわり)

エヴァタさんのブログです。 『弱視目線』 <https://blogs.yahoo.co.jp/childrenkaneyou>

## 『大好評！天使限定 人間体験 無料キャンペーン』

トルストイの作品を読んだのは初めてでしたが、名前からして固そうな作家が、こんなファンタジー要素の強い作品を書いていたとは知りませんでした。

読んでいる途中、あまり商売のうまくいかない主人公が、途中で困っていきそうな男を家に連れて帰ったら、奥さんに怒られて、素っ裸の男とともに追い出され、これから生き甲斐を見つけようと途方にくれて終わりそうだな～なんて予想していたので、いい意味で裏切られました。

過去が謎につつまれているミハイルが、旦那から注文された長靴を作らずにスリッパを作ってしまう場面は、セミヨン達を裏切って牢屋に入れる作戦(裏切る理由がわかりませんが…)なんじゃないかとか、まさかの「天使」というトンデモ設定で驚きました。

神様から出された、魂を取って来い！という命令で、ミハイルは、ほぼ死神のような働きをさせられますが、その意味を見出す為に神様が出した3つの宿題が少しずつ解決して行って、ミハイルの表情にヒントが隠されているのが良かったと思います。

セミヨンが教会で見かけた素っ裸の男を最初は、危険だなと見捨てたのは、ある意味で当たり前だし、現代人だったら、警察を呼ぶぐらいが精一杯かもしれない。

さすがに、素っ裸の男に衣服を与え家に連れて帰り、貧しい生活だけでも暖をとらせたり食事をあげようとするのは、奥さんに怒られようとも、セミヨンさん自身の中に既に神様が宿っていると思いました。

人助けって、自分ではいいと思っても、相手は逆に迷惑する場合(例えば、電車の座席譲り合い。僕は面倒なのでなるべく座りませんが。)もあり、難しいけれど、困っている人がいたら、なるべくは親切にしたいな、と思いました。

もし、罪と罰のマルメラードフにミハイルが出会えていたらどうだったんだろうか？  
素っ裸のミハイルを助ける気力はないかもしれませんが、興味は尽きないところです。

(おわり)

イノマンさんのブログです。 『イノマンブログ』 <http://ameblo.jp/inoman-1984/>

# 人はなんで生きるか レフ・トルストイ 読書感想文

心は見えない。他人からも見えないが、意識しなくては自分でも見えてこない。

人間の中にあるものはなにか。

人間に与えられていないものはなにか。

人間はなんで生きるか。

その答えをみつけるまで、人間の姿となった天使のミハイルは貧しい靴職人の家で働き、暮らす。

3つの言葉の答えと3つのエピソード。すべての答えが示されたとき、ミハイルに笑顔が宿り、後光が指す。大天使ミカエルの名の通り、最後は火柱と共に天使の羽が生えて天へと昇ってゆく。おとぎ話のようであるけれどもなぜか説得力のある現実的な話に感じられる。

根底には心うつくしく真面目な、貧しい靴職人の暮らしが描かれていた。ロシアの田舎のきびしい冬。真っ白の景色の中にもあたたかい家族の小さな日常が色あざやかに感じられ、幸せな気持ちになる人間愛がたくさん込められていた。

セミヨンとマトリョーナの家族は貧しかった。あの冬の日、ミハイルを連れて帰ってきてしまったから、明日のパンもない。なのにマトリョーナはミハイルの笑顔を思い出すと心がおどってくる。家の中が寒くてもセミヨンにくっついてベッドで眠るシーンはお互いの体温がじんわり伝わってくるようで愛情の深さが温かかった。

「すべてのひとは自分のことを考える心だけでなく、愛によって生きているのだという」

日々おだやかにそれなりに忙しく暮らす自分は、一瞬一瞬に「愛」を感じながら生きているかと言われたら自信がない。ただ、愛によって生かされているのなら、愛を与えることしか、この人生の目的はないじゃないかとあらためて気づかされる。

トルストイの民話集の話はどれも、慈悲深い民衆のための精緻な言葉がつまっていて、いつまでも眺めていられるうつくしい絵画のように思う。

(おわり)

## 『人はなんで生きるか』感想文

私は、セミヨーンが愚痴をこぼしたり、礼拝堂の壁によりかかるミハエルを最初怖くて通りすぎようとしていて、聖人君子みたいじゃない所が身近な感じがして良かったです。

もし、実際にそんな人を見かけたらすぐに助けよう！とはならないし、私も迷うと思うし普通の事だと思う。貧しくて、すごく寒いのに外套もないなんてセミヨーンも恵まれた環境じゃないのかもしれないけれど、でもセミヨーンの心には神様がいて

『おい、セミヨーン、よくねえだぞ！』と思い直した所が一番好きです。

セミヨーンがミハエルに帽子も貸してあげようと思ったがミハエルは髪の毛がフサフサしてて、セミヨーンは禿げてるから帽子はそのまま自分で被ってた所が少し面白いと思ったし、完璧すぎない感じがして好きな所です。

ミハエルは、服もなくて行くところもないのでセミヨーンの家においてあげるのだけど、ちゃんと仕事をしなきゃいけないと言って仕事をさせていて、最初、意外な感じがしましたが、仕事をするという事はミハエルの居場所を作ってあげるという事なのかなと思いセミヨーンの優しさが感じられました。

ミハエルが神様の三つのお言葉を話している所は読んでいて自然に涙が流れました。

自分の為だけでなく自分以外の人にも愛を持って接するという事はなかなか実行するのは難しいかもしれませんが、

『よくねえだぞ！』と自分自身に問いかける事が出来れば少しは愛を持って恥ずかしくない生き方ができるのかなと思いました。

読み終わって、私の汚れた心も少しは洗い流された気持ちがして良かったなと思いました。

(おわり)

## 『人はなんで生きるか』 読書感想文

生きていることが苦しく面倒で「自分は何のために生きてるんだろう？」という観念が漠然とあった時期、「人はなんで生きるか」の表題と感銘を受けた「アンナ・カレーニナ」の作者の作品だったこともあり、なにかしらの答えを期待してだいぶ前に読みました。読んでみると「何のため」ではなく、「なにによって」という事が書かれていて、愛とか絵空事のように、反感すら覚えたように記憶しています。

その時の自分は、いきなり三頭びきの箱籠でやってきて一方的な物言いをする大槌でぶっても死にそうもない旦那のように「自分自身にとって何が必要であるかということを知る力が与えられていない」状態だったし、その上求めていたものと違っていた事も重なり、残念ながら全く理解できませんでした。「アンナ・カレーニナ」も表面でしか読めていなかったと、後々気づけました。

それから数年後偶然ユーチューブで見つけた、信州読書会の宮澤さんの哲学等に関する音声をたくさん聴かせていただき、主観だけで物事を判断する危うさを学ばさせていただきました。現在では、だいぶ客観的にもみれるようになりました。(多分ですが)

そして今回再読して、印象が180度変わりました！

不必要なものを追い求めるばかりで消耗し、ほんとうに必要なものを見失い路頭に迷った空っぽな自分を見出すことができました。

トルストイは、この俗世でわたしが思いもつかないような絶望を経て、この境地になり「神＝愛＝人間の中にあるもの」のことを書いているのであって、ただのきれいごとではないのだと思えました。

「わしらはなんでもひとにくれてやるのに、どうしてだれもわしらにやってくれないんだろうね？」というマトリョーナの問いかけに、セミヨーンはこう言います、「そんなこたあどうだっていいよ」と。少しも心にやましいところを持たぬひと、セミヨーンは最強だし、最高にかっこいいと思いました！

(おわり)



## 『 神われらに在す 』

私が幼稚園生だった頃、ふと友人と「神様」の話になった。神様はどこにいるのか？という問いに、「お空にいるんじゃないの？」と答える私に、ある友人は「違うよ。」と言う。「じゃあ、土の中？」「もっと違うよ！神様は心の中にいるんだよ。」と同じ幼稚園生の友人は冷静に答える。「心」の定義でさえあやふやな幼い私の心に、その言葉はズキッときた。当時の神への理解といえば、神様は願いを叶えてくれる存在であり、悪いことをしたら空から見られている…というものだった。そんな神様が自らの心の中にいるとは、当時はどうしても理解できなかった。しかし、その答えはこの民話にあったのだ。

貧しい靴職人セミオンは、神の罰で下界に降りていた天使である裸の男ミハエルを家に連れて帰る。その天使は、神からの三命題のために人間界に留まった。

ミハエルが双子を生んだばかりの母親から魂をぬけなかったことが神の罰であるなら、私も罰を受けなければならない。私自身も同じ状況なら母親の魂を抜けなかったと思うからだ。しかし、最後まで読んでみて、それは表面だけの同情であって、人間の愛について無知で人間を信用していないということがわかる。

私を含め多くの大人は、自分一人の力で生きてると錯覚している。人間は生まれ落ちた瞬間から、誰かの「愛」の中でしか生きられなかったのだ。裏を返せば、現在生きているということは必ず周囲に「愛」があったということだろう。だからこそ、生んだ親がいないと双子は生きられないと人間の愛を信用しなかったミハエルは罰を受けたのだ。そして、その母も人間の「愛」の存在を知らなかった。

三命題のひとつ「人はなんで生きるのか」で、人間は「愛の力だけによって生きているのだ」とミハエルは答えを見つけた。「人間の中にあるものは何か」の答えが「愛」であるなら、人間は神の中で生きており、神は人間の中にいると理解する。「愛」には貧富も立場も関係ない。ミハエルは、あのセミオンやマトリオーナの中にも「神」を見出したのだから。

神の所在のことを教えてくれた友人は、幼稚園生にあって、「神が愛である」「人の中に神がいる」ということを理解していたということか。改めて、感服した。

(おわり)

岡山読書会のブログです。過去のコラムなども掲載されています。ぜひご覧ください。

<http://ameblo.jp/kaoru8913/>

スカイプで個別読書を主催されています。ご興味ある方はブログからお問い合わせください。

## 「なくてはならないもの」

この前、生まれたばかりの赤ちゃんを河川敷に生き埋めにした母親が逮捕される事件があった。

土の中で泣いていた赤ちゃんは、通りすがりに人に発見され保護され、奇跡的に無事だったようだ。

ミハエルは、長靴を注文してきたお金持ちの大男が、死の天使に取り憑かれているのを見て、《一年先のことで用意しているが、この夕方までも生きていられないことは知らないのだ》と思った。そして、神の『人間に与えられていないものは何か?』という質問の答えに思い至った。

(引用はじめ)

人間には、自分の肉体のためになくてはならないものを知ることが、与えられていないのです。

Не дано людям знать, чего им для своего тела нужно

(引用おわり)

だが、この訳文だと、意味がわかりづらい。「なくてはならないもの」が何なのかが、いまいち、よくわからない。スリッパが必要なのに、長靴をほしがっていることを指しているのは、わかる。だが、つまりは「メント・モリ」とか「死の必然性と人類の永続性のあいだにある矛盾」という話なのかということ、そうではない気がする。

この赤ちゃんを、助けた天使がいたとしたら。

捨てた母親は、誰かに発見されてほしかったのか、タオルで巻いたうえで、軽く土をかけたただけだったから、通行人が泣き声を耳にして、赤ちゃんは助かったようだ。彼女は、産み落とした赤ちゃんを自らの手で殺めつても、どこかで助かってほしいという葛藤に苦しんだに違いない。

ミハイルのような心優しい天使が、この河原で、母親によって生き埋めにされた赤ちゃんの魂を奪い去るのにしのびなく、立ち去ったのだとしたら、この赤ちゃんのその後の人生を確認するために、彼は、もう一度人間の世界に、人間として堕ちてくるべきだろう。

その時、かつて天使だった男は、何を目にするだろう。

「なくてはならないもの」を直観すらできず、奇跡が台無しになっている光景を。

やはり、「なくてはならないもの」を、知ることが、与えられてない人類の悲惨を。

人間の中の愛の欠落を、神の不在を、まさか。

(おわり)

『信州読書会』 メルマガ登録はこちらから [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=714](http://bookclub.tokyo/?page_id=714)

今後のツイキャス読書会の予定です。 [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=2343](http://bookclub.tokyo/?page_id=2343)

課題図書はこちらでお求めください [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=2343](http://bookclub.tokyo/?page_id=2343)